「演劇」を通して
カーボンニュートラルを身近に

222W020　竹島千景

表現手法
「**演劇**」を用いた理由

登場人物、ストーリー、台詞、動き…
聴覚的・視覚的に学ぶ

演劇を楽しむ

＋

カーボンニュートラルについて意識する

京都大学を訪問して…

- 若い人材を必要としていることを知った
- 地域の皆さんと一緒に課題を解決する
- 「私もやってみたい」という気持ちが大切

カーボンニュートラルについて興味を持って貰う必要がある

「難しそう・私には出来ない」と否定的な考えを減らしたい

演劇の概要

題名：知ろう、気づこう、カーボンニュートラル

対象：中学生～大学生

狙い：身の回りのカーボンニュートラルを学ぶことで、自分には何が出来るか考えるきっかけを作る

時間：約２５～３０分

［場所：各学校(講演会)］

あらすじ

順風満帆な大学生活を送る**田邊翔太**は、来週の授業に控えている「**身の回りのカーボンニュートラル**」の発表準備に困っていた。

翔太がスマホで情報収集を行っていると、あるサイトに出会う。そのサイトとは「**『一日寄り添って』カーボンニュートラルについて分かりやすく教える**」というサービスの申し込みサイトであった。

これに申し込んだ翔太は次の日の朝、何度も鳴り響くチャイムの音で目が覚める。

扉を開けるとそこには**スーツ姿の怪しげな男**が立っていた…

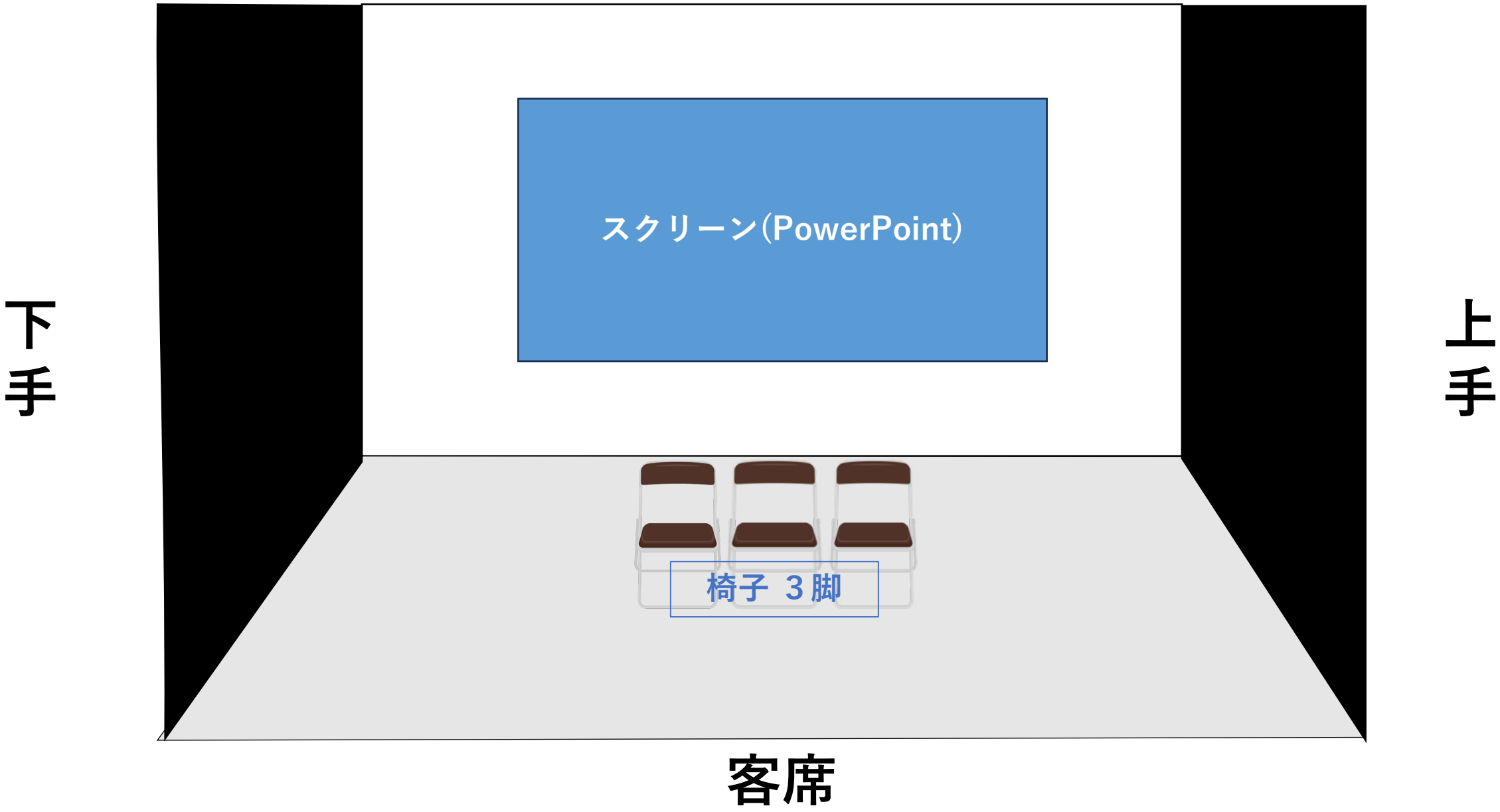
登場人物

田邊翔太

- 大学生
- 一人暮らし
- 勉強は苦手だが、素直が取り柄
- クールなイマドキ男子

綿脱素未也(スミヤ)

- 正体は特別講師
- スーツ姿
- 愛嬌たっぷりな、怪しいおじさん
- カーボンニュートラルに向けて、若い人材を探している


スクリーン(PowerPoint)
下手
上手
椅子 ３脚
客席

物語の流れ

最初は「カーボンニュートラル」に興味の無い翔太

↓

「脱炭素」について出来ることを、スミヤに自ら尋ねる

↓

生活の中で意識して探すようになる

↓

自分で調べ「身の回りのカーボンニュートラル」の発表準備を行う

様々な場面で登場する「CO2」

自宅、大学、トイレ、車内、スマホ

場面：自宅　クーラー

「まずは＋1度から」＝ハードルの低い

スミヤ　まず…この部屋は寒すぎます。25 度って…。エアコンは快適な分、消費電力割合が大きいので、CO_2 の排出量も多くなってしまうのです。冷房の場合は、温度が低ければ低いほど使用電力も増えるため、伴って CO_2 の排出量が増えます。↑
それに、冷やしすぎると身体にも多くの負担を与えますよ。↑

翔太　へっくしょん(くしゃみ)　↑

スミヤ　クーラーの温度を上げましょう。うーん、26 度で。↑

翔太　26 度?28 度とかの方が良いんじゃねーの?↑

スミヤ　翔太君の場合は、25 度の環境に慣れてしまっているので、急に 28 度まで温度を上げると、身体が慣れず体調を崩してしまう、暑さに耐えられず温度を下げ直してしまうかもしれません。まずは1度ずつ変えていきましょう。↑

翔太　ふーん。でもたった1度じゃ CO_2?の排出量はそんな変わんねぇだろ↑

スミヤ自慢げに↑

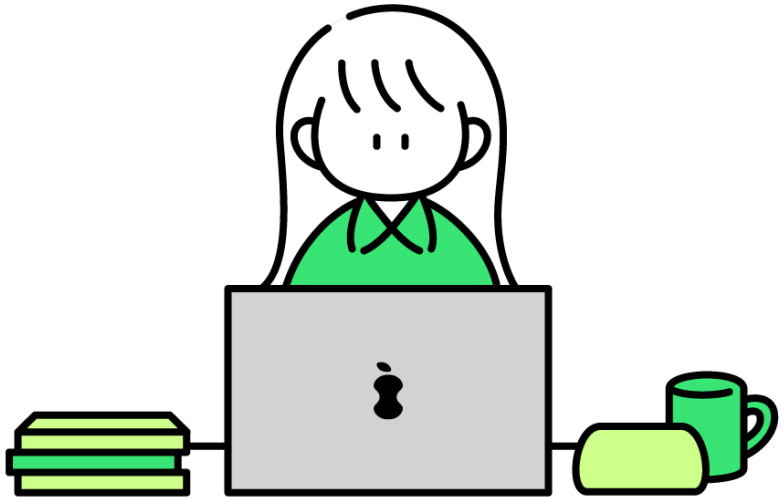
スミヤ　実はそんなこと無いんですよ。エアコンの設定温度を1度調節するだけで、消費電力を約 13%減らすことができ、CO_2 を約 8 kg も削減が可能なんです。↑
エアコンの温度を1度調節するだけで、大きな省エネ効果が期待できますよ。↑

翔太　じゃあ、しばらくは 26 度で生活してみるか↑

スミヤ　また、慣れてきたら 27 度にしてみてください↑

身の回りのカーボンニュートラル　脚本
(全12ページ)

読み込みに少し時間が掛かります



まとめ

一人では達成することが出来ない
＝多くの人々が必要とされる

「カーボンニュートラル」を意識するきっかけになるような脚本を目指して制作